

令和7年度 住吉区総合防災訓練 実施結果



1 概要

○目的

区災害対策本部の初期初動体制の実効性について検証を行い、行政としての災害対応能力の強化を図るとともに、災害時の避難所について、各地域が迅速かつ円滑な避難所の開設・運営が行えるように、地域の総合的な防災力の向上をめざす。

また、女性をはじめとする多様なニーズを反映した避難所運営にむけて取り組むとともに、福祉避難所との連携訓練を実施していく。

○日時

令和7年11月8日(土) 9時～12時

○場所

災害時避難所、町会一時避難場所、福祉避難所等、住吉区役所 他

○参加者

区内全12地域活動協議会、住吉区職員、住吉区直近参集者、住吉区在住防災士、福祉避難所、緊急入所施設、大阪急性期・総合医療センター、住吉区医師会、住吉区薬剤師会、住吉区歯科医師会、住吉区訪問看護ステーション災害有志の会、災害時協力事業所、国際交流センター、住吉区社会福祉協議会、住吉消防署、大阪市水道局、西南環境事業センター

2 令和7年度 住吉区総合防災訓練

地震発生！

⇒9:00 訓練開始！

(町会一時避難場所、災害時避難所に集合)

9:00
防災スピーカーから
サイレン

町会災害対策本部の設置訓練
(町会長、町会役員等)

1. 一時避難場所に町会本部を設置

2. 無線通信訓練(地域本部と通信)

3. 安否確認訓練

4. 災害時避難所への避難訓練 **重点**

集まった参加者へ
訓練の内容と避難場所等について説明

【その他】

- ・救助資器材の点検、使用訓練
- ・ケガ人や要援護者の搬送訓練(車イス等)
- ・応急手当訓練
- ・初期消火訓練(消火器の確認等) など

地活協役員
及び防災
リーダー等

地域災害対策本部の設置訓練

1. 情報収集・伝達訓練

- 町会本部とのデジタル無線通信訓練
 - ・ 安否確認、被害状況の把握
 - ・ 救護要請など
- 避難所とのデジタル無線通信訓練
 - ・ 建屋被害状況、避難者数の確認
 - ・ 物資、救援要請など
- 区本部とのLINE通信訓練
 - ・ 地域被害状況、避難者状況の報告
 - ・ 救出救護、物資要請など
- 状況付与への対応訓練

【その他】

- ・ 避難支援・誘導訓練 など

避難所運営委員会の設置訓練

1. 情報収集・伝達訓練(総務・情報班)

- 地域本部とのデジタル無線通信訓練
 - ・ 避難者数の確認
 - ・ 物資、救援要請など

2. 受付、避難所配置訓練(管理班)

- 受付設置と避難者数の集計
- 部屋のしつらえ、看板等の設置・表示
- 避難者の部屋への誘導(避難所見学対応)
- 簡易トイレの設置
- 避難所レイアウト(養生テープ等で区分け)

3. 熱咳等症状者やけが人の対応(救護班)

- 救護室、福祉避難室の設置
- 療養スペース等の設置
- 福祉的トリアージ及び福祉避難所への搬送訓練

4. 備蓄物資の確認(食糧・物資班)

- 備蓄物資の点検

女性をはじめとする多様なニーズを反映した避難所運営

福祉避難所との連携訓練

4 区災害対策本部の設置・運営訓練

区災害対策本部の設置・運営訓練

1. 本部設置・情報収集・伝達訓練(庶務班)

- 区災害対策本部の設置(4階大会議室)
- 地域本部とのLINE通信訓練
- 防災情報システム通信訓練
- ボランティアセンターとの無線通信訓練
- 広報訓練(X:旧Twitter)

2. 災害時避難所での受入れ(避難受入班)

- 地域と連携した避難所開設訓練

3. 被災者の医療救護、 区保健師・看護師の派遣、区医師会等との連絡調整(保健福祉班)

- iisumiによる情報収集
- 福祉避難所等とのデジタル簡易無線通信訓練
- 区保健師の避難行動要支援者の安否確認及び災害時避難所への派遣訓練
- 看護師(訪問看護ステーション)の災害時避難所への派遣訓練

5 避難所開設訓練状況

● 地域が開設 18箇所

▲ 職員のみで避難所確認 15箇所

— 開設せず(使用不可) 4箇所

災害時避難所名	開設	災害時避難所名	開設	災害時避難所名	開設
墨江小学校	●	大領中学校	●	浪速中学校・高等学校	—
清明学院高等学校	▲	帝塚山学院(第2体育館)	—	苅田小学校	●
住吉武道館	▲	長居小学校	●	苅田南小学校	●
清水丘小学校	●	大阪学芸高等学校	▲	阪南高等学校	—
墨江丘中学校	▲	長居幼稚園	▲	我孫子中学校	▲
英明幼稚園住吉	▲	依羅小学校	●	苅田北小学校	●
遠里小野小学校	●	大阪公立大学(第2体育館)	▲	東我孫子中学校	▲
大和川中学校	●	我孫子南中学校	●	教育センター附属高等学校	▲
英明幼稚園遠里小野	▲	南住吉小学校	●	大阪府教育センター	▲
東粉浜小学校	●	大空小学校	—	錦秀会住吉区民センター	▲
住吉中学校	●	三菱中学校	●	住吉区老人福祉センター	▲
住吉小学校	●	山之内小学校	●		
大領小学校	●	府立大阪南視覚支援学校	▲		

6 iisumiについて

▶各施設(病院、クリニック、薬局、訪問看護ステーション、福祉避難所、災害時避難所)がスマホ等で被害状況等を入力することにより、区災害対策本部で情報の一括収集を迅速に行い、以降の支援計画の検討に活用

【イメージ】



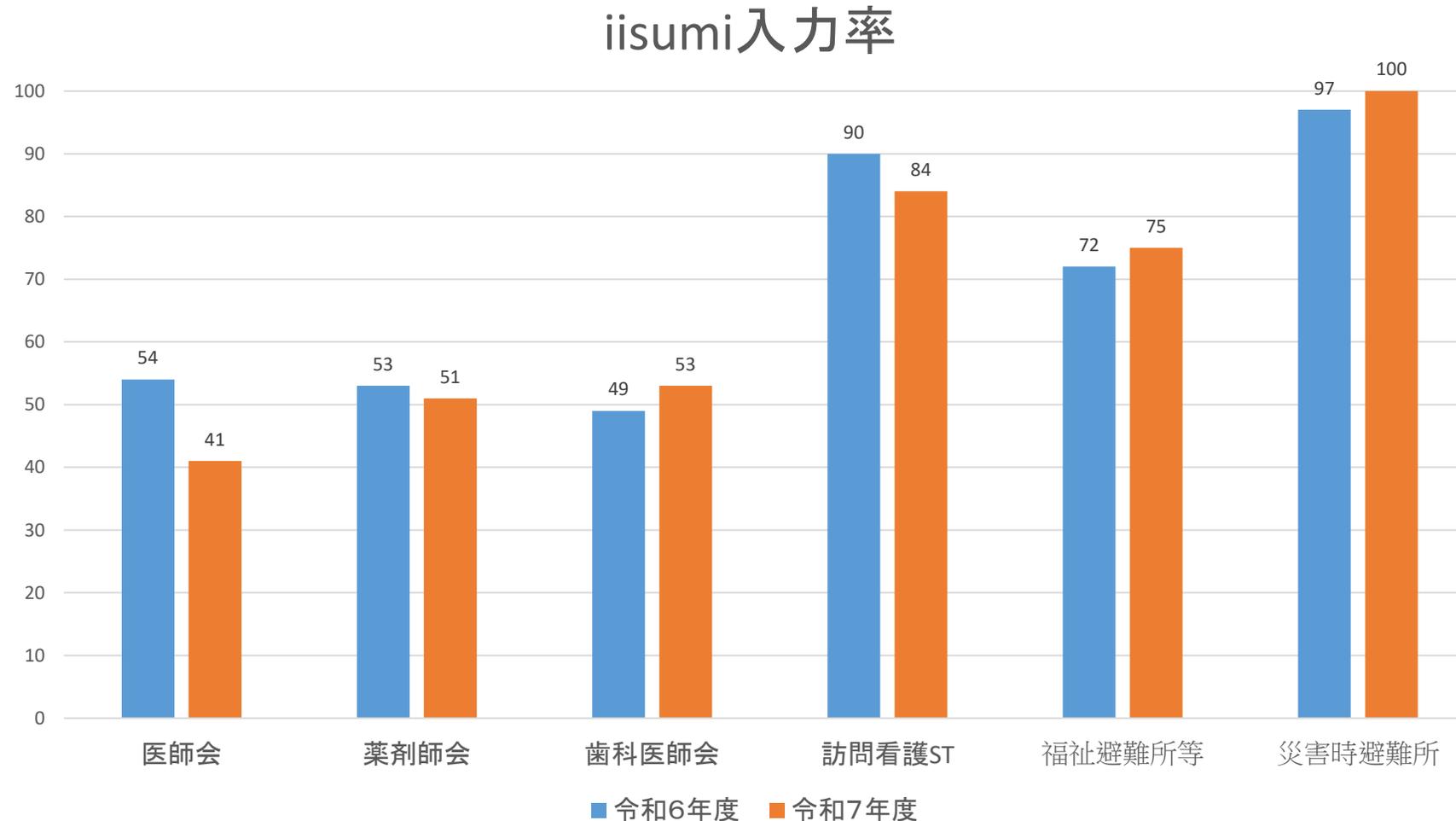
6 iisumiについて

【登録内容等の概要】

団体	iisumi登録施設数 (計350)	登録内容									
医師会	100	開院状況 (有無)	建物倒壊の 恐れ(有無)	電気(有無)	水(有無)	電話 (可・不可)	医薬品等 (充足・不足)	多数患者 (有無)	職員数 (充足・不足)	物資(実数)	
薬剤師会	77	開局状況 (有無)	建物倒壊の 恐れ(有無)	電気(有無)	水(有無)	電話 (可・不可)	医薬品等 (充足・不足)	多数患者 (有無)	職員数 (充足・不足)	物資(実数)	
歯科 医師会	85	開院状況 (有無)	建物倒壊の 恐れ(有無)	電気(有無)	水(有無)	電話 (可・不可)	医薬品等 (充足・不足)	多数患者 (有無)	職員数 (充足・不足)	物資(実数)	
訪問看護 ST	19	建物倒壊の 恐れ(有無)	電気(有無)	水(有無)	医療ガス (充足・不足)	医薬品等 (充足・不足)	食料 (充足・不足)	全利用者数 (実数)	職員数 (充足・不足)	物資(実数)	
福祉 避難所	32	建物倒壊の 恐れ(有無)	電気(有無)	水(有無)	医療ガス (充足・不足)	医薬品等 (充足・不足)	食料 (充足・不足)	利用者定員 (実数)	受入可能 人数(実数)	職員数 (充足・不足)	物資(実数)
災害時 避難所	37	建物倒壊の 恐れ(有無)	電気(有無)	水(有無)	冷暖房 (可・不可)	食料 (充足・不足)	トイレ (充足・不足)	最大避難 受入可能数	避難者数/ 有症状者/ 要配慮者	職員数 (充足・不足)	

6 iisumiについて

【iisumi入力率(令和7年度総合防災訓練)】



7 訓練協力関係機関等

機関名称	連携・協力内容
大阪急性期・総合医療センター	<ul style="list-style-type: none"> ●本部運営訓練 ●iisumi通信訓練
住吉区医師会	<ul style="list-style-type: none"> ●iisumi通信訓練
住吉区薬剤師会	<ul style="list-style-type: none"> ●本部運営訓練 ●iisumi通信訓練
住吉区歯科医師会	<ul style="list-style-type: none"> ●iisumi通信訓練
住吉区内訪問看護ステーション	<ul style="list-style-type: none"> ●本部運営訓練 ●iisumi通信訓練 ●災害時避難所及び一時避難場所への派遣
福祉避難所・緊急入所施設	<ul style="list-style-type: none"> ●無線・iisumi通信訓練 ●災害時避難所からの搬送、施設受入れ訓練 (特養なごみ・特養ゆうけい創和・浅香障がい者会館) ●福祉避難所の設え及び車椅子操作等の指導 (住吉小学校・山之内小学校・我孫子南中学校)
住吉区社会福祉協議会	<ul style="list-style-type: none"> ●無線通信訓練 ●ボランティアセンター設置運営訓練
西南環境事業センター	<ul style="list-style-type: none"> ●災害時用トイレ「ドント・コイ」設置訓練(苅田北小学校)
大阪市水道局	<ul style="list-style-type: none"> ●応急給水体験(清水丘小学校)
大阪国際交流センター	<ul style="list-style-type: none"> ●災害時の外国人避難者受付訓練(苅田南小学校)
東日本大震災語り部 佐々木 守氏 (消防庁「防災意識向上プロジェクト」)	<ul style="list-style-type: none"> ●講話「東日本大震災における釜石市の教訓から危機への対応」

8 訓練の様子(町会一時避難場所)



避難者受付



応急救助訓練(毛布担架)



無事を知らせるタオル

9 訓練の様子(災害時避難所)



倒壊家屋からの救助



テント・ベッドの組立



特設公衆電話設置



外国人対応



防寒対策



足湯体験



地域災害対策本部

9 訓練の様子(災害時避難所)



福祉施設職員による車椅子操作講習



福祉避難室設置・福祉的トリアージ



災害時用トイレ
ドントコイ



災害時用給水袋 重量確認



福祉避難所への搬送

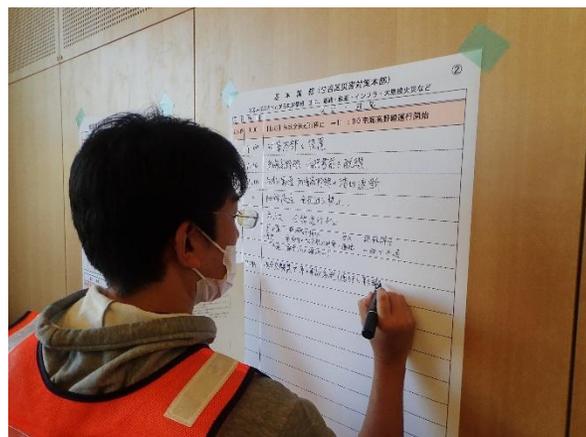


炊出し

10 訓練の様子(区災害対策本部)



庶務班(被害状況の把握・対策検討、処理等)



防災情報システム
(市との情報共有)



保健福祉班(避難所に避難してきた要配慮者・傷病者等の対応指示、iisumiを活用して搬送先の検討等)

アンケート結果

回答者数：849名（一時避難場所・災害時避難所で配布）

【世代別】

【性別】

男性：326名

女性：502名

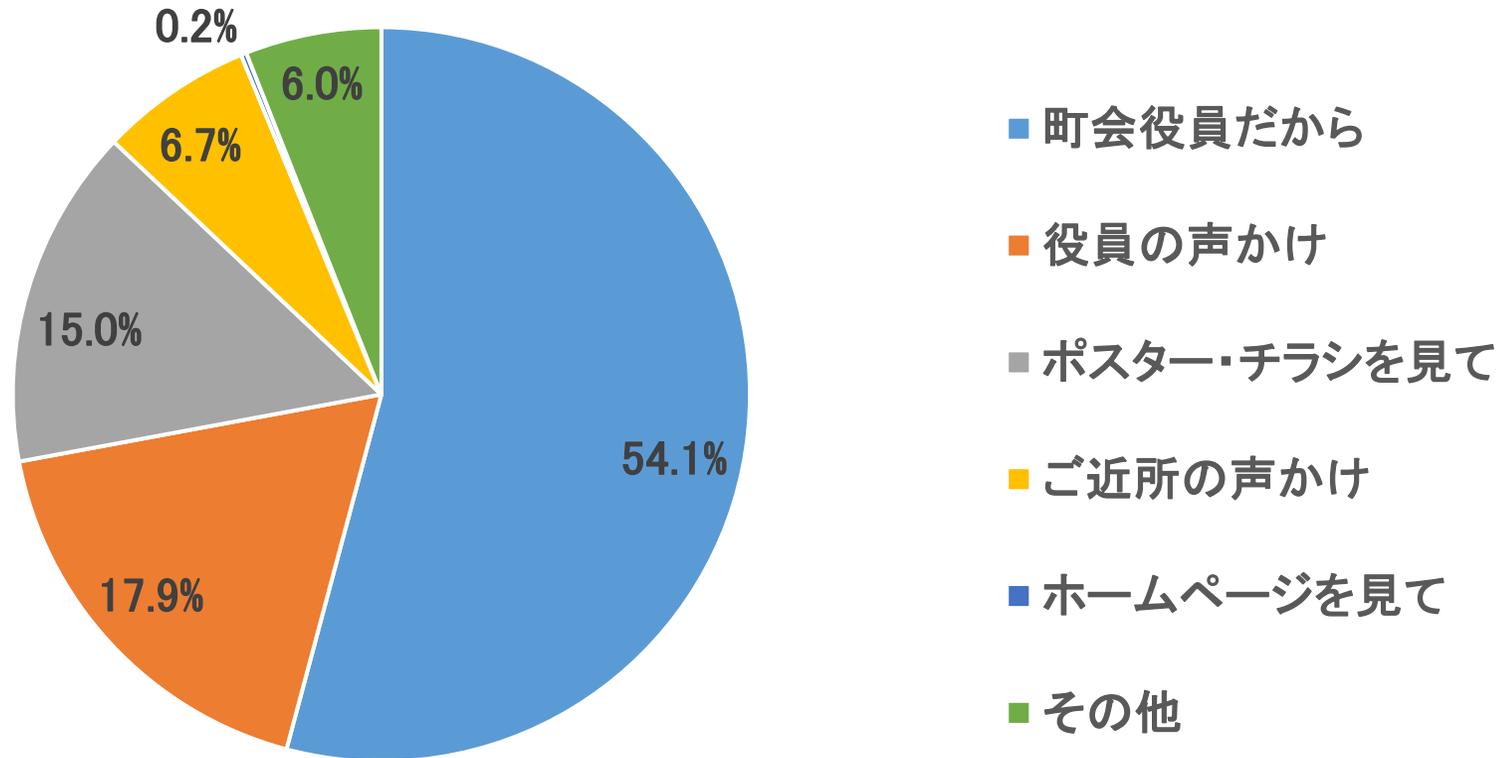
その他：3名

未回答：18名

世代	地域住民 人数(名)	世代	地域住民 人数(名)
10歳未満	2	60歳代	156
10歳代	4	70歳代	277
20歳代	17	80歳代	128
30歳代	21	90歳代	7
40歳代	56	未回答	60
50歳代	121		
合計			849名

Q1 . 訓練に参加したきっかけを教えてください。

訓練に参加したきっかけ

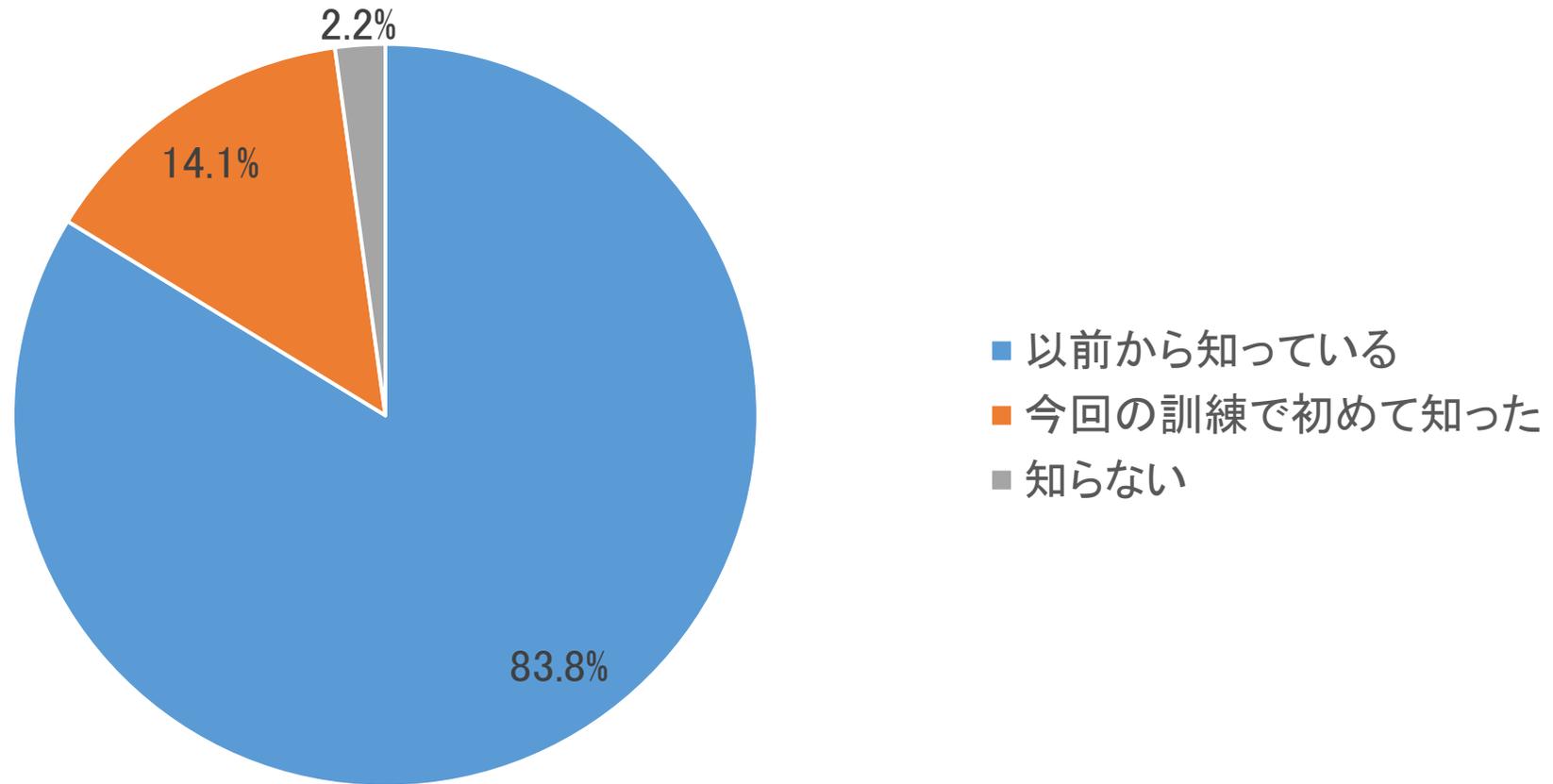


その他として、回覧板を見て・班長だから という意見がありました



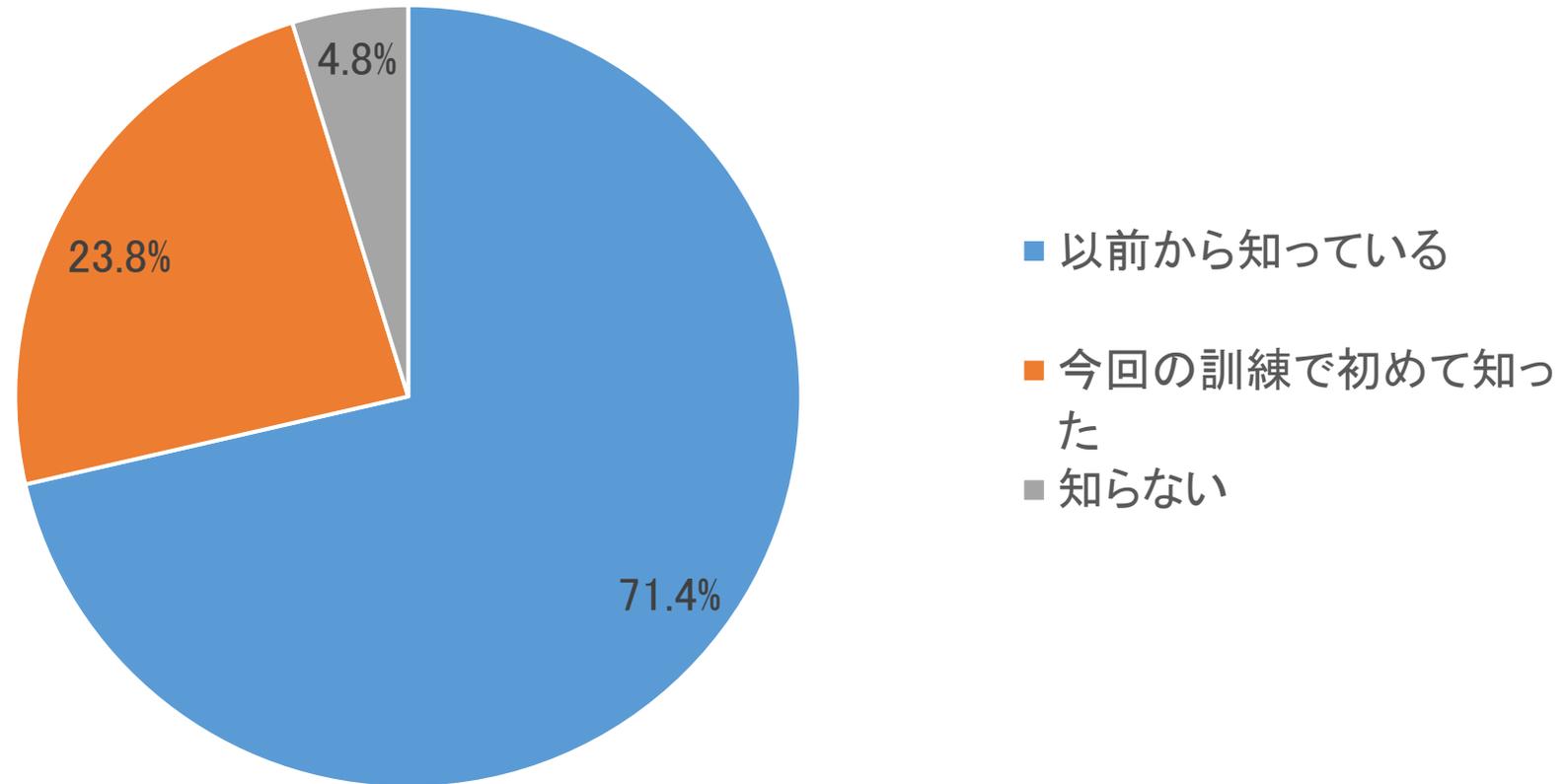
Q2.あなたは、一時避難場所がどこかご存知でしたか。

一時避難場所がどこか



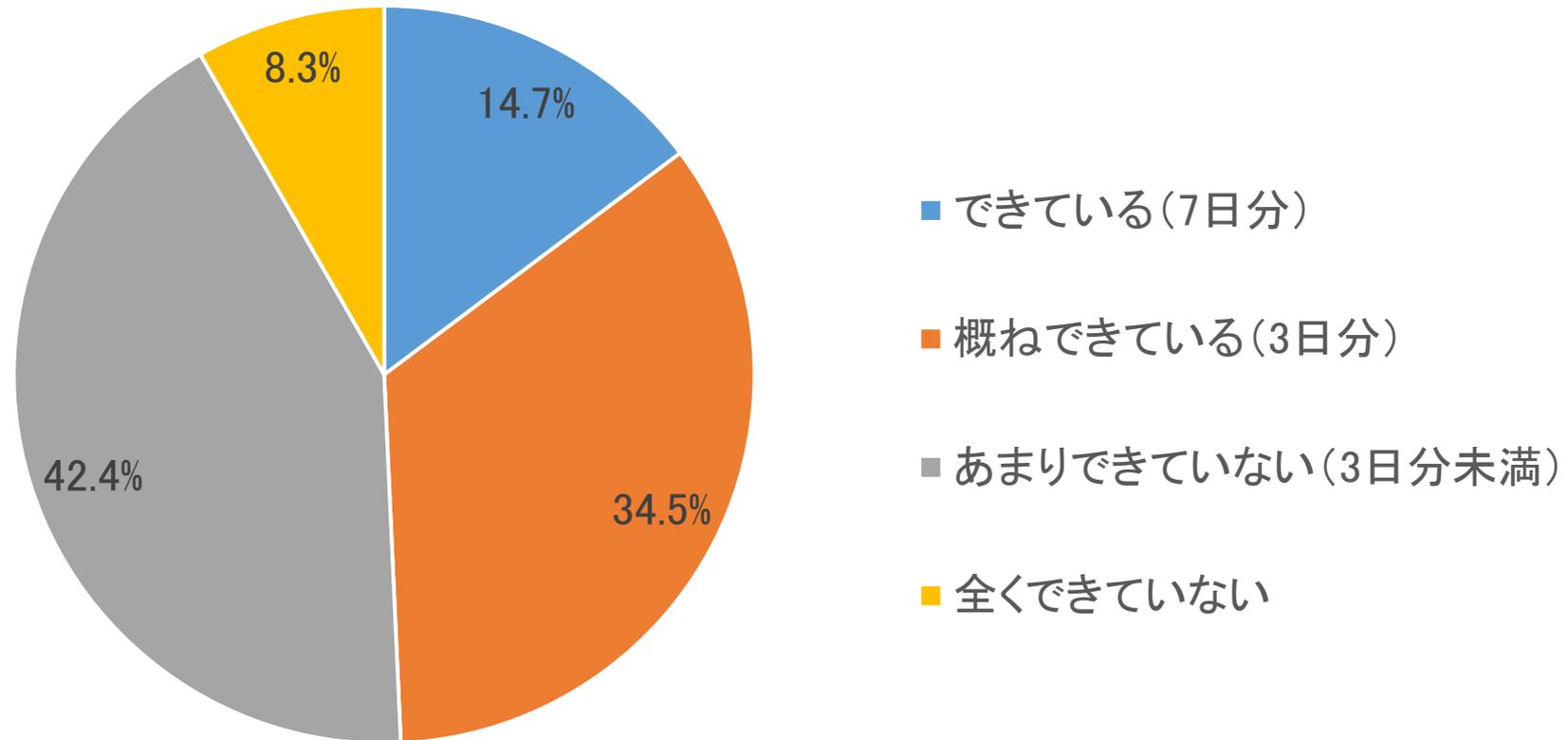
Q3.あなたは一時避難場所と災害時避難所の違いをご存知でしたか。

一時避難場所と災害時避難所の違い

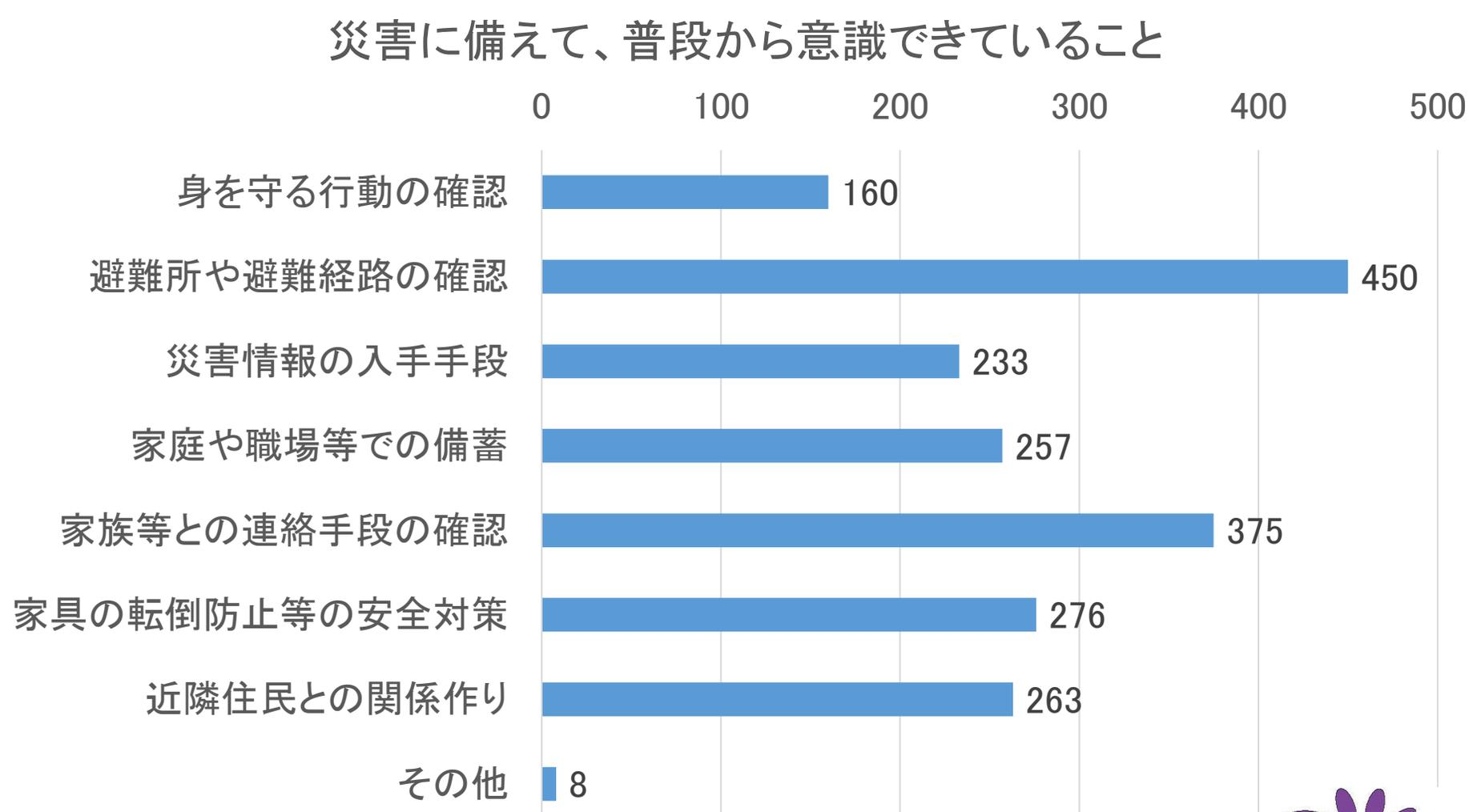


Q4.災害時に備えて家庭内で備蓄ができていますか。

災害時に備えた家庭内での備蓄



Q5.災害に備えて、普段から意識できていることを教えてください。(複数回答可)



その他として、保存食やペットフードの備蓄がありました。



(人)

Q6 .多様なニーズを踏まえた避難所運営を行うために必要なこと(もの)は何だと思えますか。

【スペース】

- ▶ トイレの充実
- ▶ プライバシーの確保
- ▶ 授乳室、更衣室などの確保

【物資】

- ▶ パーテーション
- ▶ 車いす、スロープ、手すり、おむつ、生理用品等の確保
- ▶ 照明等の確保

【体制】

- ▶ 避難所の運営に女性が参加すること、女性の防災リーダー
- ▶ 夜間の見回りや警備の実施
- ▶ 要配慮者への声かけ、普段からの関係構築
- ▶ 人的支援体制の確保(人員・相談窓口・情報伝達)

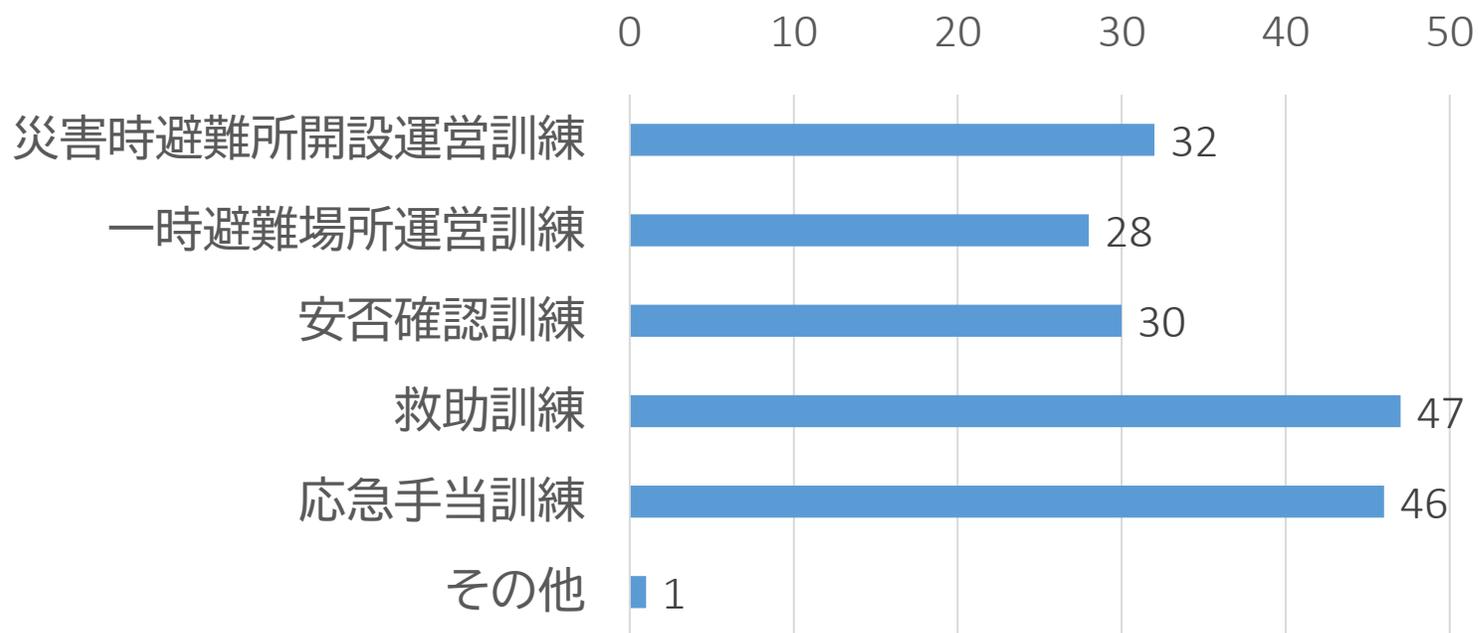
【その他】

- ▶ 要配慮者の訓練参加

Q7.次回の防災訓練で実施したい訓練内容について教えてください。(複数回答可)

(人)

次回の訓練で実施したい内容



その他として、津波を想定した訓練、消火訓練・在宅避難に必要な事、災害時特設電話の使用方法などがありました。



Q7.次回の防災訓練で実施したい訓練内容について教えてください。(複数回答可)

○その他の意見

【物資】

- ▶ 災害時の食料や備蓄について
- ▶ トイレ、水の確保を教えてください

【応急手当】

- ▶ 実際けがをするとどうしたら良いか。家の中での身の守り方について。

【その他】

- ▶ ペット同伴者への対応訓練
- ▶ 悪天候時の設営訓練
- ▶ 南海トラフ地震が起こったとき津波でどれくらいの被害があるのか
- ▶ 給水体験

Q8. 今回の訓練で良かった点や改善すべき点

○良かった点

【物資】

- ▶ 毛布の防寒対策、足湯、段ボールトイレ訓練がよかった。
- ▶ テントの組立や担架を経験できてよかった。
- ▶ 備蓄について教えていただいて、家庭での備蓄の必要性を感じた。
- ▶ 避難場所や備蓄品が見られてよかった。
- ▶ 初めて訓練に参加させていただきました。避難時の流れ、備蓄等参考になりました。

【安否確認】

- ▶ 安否確認のタオルをかけてくれている家庭が増えている。

【応急手当】

- ▶ 災害時は救急車も来れないと聞いている。応急手当などの訓練は必ず役に立つ。

【その他】

- ▶ 家具の固定など、まずは自宅でできることから取り組もうと思った。
- ▶ 地域・行政と一緒に訓練できたこと。繰り返し訓練を行うことで、新たな気づきも得られた。

Q8. 今回の訓練で良かった点や改善すべき点

【課題、改善すべき点及び対応方針】

	主な意見・課題等	対応方針
1	防災スピーカーの音声が聞こえない。	<ul style="list-style-type: none">・ 遮音性の高い住居や高層建築物の増加、騒音の影響などといった都市部を取り巻く環境によって、音が伝わりにくい状況になっています。・ 地震、津波、弾道ミサイル等による武力攻撃といった緊急事態の種類によってサイレン音のパターンを区別するなど取り組むとともに、音声聞き取れなかった場合には防災行政無線テレホンサービス(06-6210-3899)で放送した音声を聞くことができます。(通話料がかかります。)また、大阪防災アプリでも放送内容が確認できます。・ 災害発生時には防災スピーカーだけでなく、大阪防災アプリやおおさか防災ネットなどを用いて災害情報を伝達することとしており、皆様に必要な情報が確実に伝わるよう、引き続き、多様な情報伝達手段の周知に努めてまいります。

【課題、改善すべき点及び対応方針】

	主な意見・課題等	対応方針
2	ペットの避難についても考えておくべき。	<ul style="list-style-type: none"> ・ ほとんどの避難所では、屋外の屋根のあるスペースにペット保管場所を設けています。なお、衛生上の理由から、居住スペースとは分離しています。 ・ 災害時地域協力事業所としてペットサロン(ペットの衛生管理)に登録いただいております。 ・ 「避難所開設・運営マニュアル」を精査し、地域や学校と連携しながら見直していきます。
3	訓練を一人でも多くの人にしてもらうこと、住民参加を促す工夫	<ul style="list-style-type: none"> ・ 区のホームページや広報紙、広報掲示板、X(旧Twitter)等で周知を行うとともに、事前に青色防犯パトロールカーでの広報を行いました。地域においては町会掲示板や町会回覧板等で周知をしていただきました。 ・ 今後も、より多くの住民に参加していただけるよう、周知方法等を検討します。

【課題、改善すべき点及び対応方針】

	主な意見・課題等	対応方針
4	備蓄倉庫内に何が入っているかわかりにくかった。	<ul style="list-style-type: none">・ 備蓄倉庫の整理を行ったうえで、備蓄倉庫内に何が入っているかを扉の内側等に掲示していますが、より分かりやすくできるよう、改善に努めます。
5	災害時、プライバシーが守られるか不安になった。避難空間を快適にすることに予算を割いて欲しい。	<ul style="list-style-type: none">・ 例年テント等のプライバシー確保のための物資を配備していますが、避難所によっては備蓄場所が足りなくなっている状況です。地域や施設管理者と引き続き調整の上、備蓄場所の確保とともに、物資の追加配備を検討します。・ 災害時は西日本段ボール工業組合との協定により、段ボールベッドや段ボール製間仕切り等が提供されることとなっています。・ 大阪市防災協定や、住吉区での災害時地域協力事業所の取組を通して、災害時の民間企業との連携を深めてまいります。

令和7年度 災害ボランティアセンター設置運営訓練 実施報告

令和7年11月8日(土) 10:00~16:00

住吉区在宅サービスセンター

【訓練概要】

☆ 運営ロールプレイ (参加者が数人のグループになり、災害VCの運営役として各ブースをローテーションする)

《ロールプレイ訓練の流れ》

● ボランティア受付

受付を行い、保険加入を確認。名札の作成をし、ビブスを受け取る。

QRコードを読み取り、受付を済ませます。



- ・ボランティア役が受付の前に移動し、QRコードにスマホをかざして受付をする。(災害ボランティア保険加入は要確認)
- ・受付後に名札シールを作成し左胸に貼ってもらう。(訓練時はビブス着用)
- ・新規、継続の(個人・団体)、ともに、毎回受付が必要。

● オリエンテーション

待機時間を活用しボランティア全般および活動上の留意事項等を説明する。人数等の確認をする。



- ・受付を終えたボランティアが待機する。待機時間を活用して、一般的な留意事項の説明を行う。
- ・活動内容、注意事項、人数の確認、役割等の確認をする。

● マッチング

ニーズに基づき活動のマッチングをする。

● グループング

リーダーを決め活動の詳細説明をする。グループ人数、リーダーの役割等の確認をする。



- ・待機場所でニーズ受付票から作成した活動依頼書を元に優先度の高いニーズからV調整を行う。
- ・グループング、リーダー選出をし、活動の詳細説明を行う。
- ・ニーズ受付票、活動依頼書を元に想定される活動内容、活動場所の状況(危険度、トイレ、周辺道路状況等)その他、考えられる注意事項を説明する。活動依頼書はリーダーに預ける。
- ・ニーズ受付票は保管し、調整済であることを明確にする。
- ・活動依頼書を元に行き方、移動手段を確認・相談する。



● 資材・車両・地図

スコップ、一輪車など、必要な物資を貸出す。活動後は返却、管理する。

活動現場へのルート、移動手段等を確認。必要に応じて貸出自転車、送迎車両等を手配する。



- ・自転車貸出、車両送迎を行う場合は、貸出状況、配車状況の記録を行い管理する。
(訓練では自転車5台、車1台がある想定)
- ・車は方面や人数で効率よく乗れるよう要調整。
- ・活動依頼書を元に、資材を貸し出す。管理表に記録する。
- ・資材が不足する場合は、適宜貸出可能な数量に調整する。
- ・Vを気持ちよく送り出す。
- ・返却時は補修の必要等を確認。



* Vケア

うがい、消毒、水分補給等を促す。精神的に一人で抱え込まないように活動上の思い等も聴くようにする。

- ・帰ってきたVリーダーに活動報告書を記入してもらう。
- ・その上で活動内容について聞き取り、補足を追記する。
- ・活動依頼書も返却してもらい、報告書と併せてニーズ受付と一体にする。翌日以降に持ち越すニーズは報告する。

● 活動報告

Vリーダーから活動結果の報告を受けます。現地の状況の聞き取りを行います。

- ・報告を終えたボランティアを労い、十分なうがい、手洗い等促す。気になるボランティアがいれば、他のスタッフと複数で対応する。必要に応じ医療情報の提供等も行う。

★**総務班** 来館された方の案内。防災無線の傍受、対応。センター全体の状況把握・調整、活動状況の広報等行う。

☆ BCP 研修

人員や業務内容の変化に計画を適応させ機能させるため訓練と併せて安否確認と連携を確認した。



☆ 防災備蓄物品の点検

区役所、区民センター敷地内に2カ所の災害物品保管物置を設置

場所：① [区民センター区役所中庭の区役所棟側]

② [図書館棟横階段側、北側駐輪場横]



* 区在宅サービスセンター保管物品の点検も実施した。